

平成20年度
学校自己評価総括表

平成20年度 最終評価 まとめ

努力目標・評価項目・具体的方策・評価基準・総括評価

平成20年度努力目標

- ◆ 小中高一貫教育を進めるとともに、家庭・地域との連携を密にし、一人ひとりを大切にする教育を推進する。
- ◆ 広い視野に立って考え、規律ある行動ができる人間の形成を目指す。
- ◆ 一人ひとりの進路実現のために、具体的かつ実践的な指導に努める。

(1) 小中高一貫教育の具体的な研究を進める。

- ① 小中高12年間を見通した系統的・継続的な教育を進める。
- ② 郷土学習を進め、郷土に感謝し、郷土を愛し、郷土に貢献する心を育てる。
- ③ 小中高一貫教育を進めるとともに、その成果の検証をしていく。

(2) 学力の充実と向上を図る。

- ① 毎時間の授業の充実・徹底を図り、年間指導計画の完全実施に努める。
- ② 学習のつまずきを究明し、その対策を講じるとともに、学習指導法の工夫と改善に努める。
- ③ 生徒の能力・適性・進路に応じた個別指導の徹底を図る。
- ④ 情報化社会に対応できる生徒の育成に努める。

(3) 基本的な生活習慣の確立を図る。

- ① あいさつ、服装、掃除等、日常的なことについて共通理解のもと、協力して指導にあたる。
- ② 学校生活でのルールや時間を守る指導を徹底する。
- ③ 公共物を大事にする心を育てる。
- ④ 研修に努めることで生徒理解力を向上させるとともに、心の教育を推進する。

(4) 進路指導の充実を図る。

- ① 地域の期待と信頼に応えるよう努める。
- ② 進路相談の充実を努める。

(5) “いじめ”の根絶を図る。

- ① 生徒の実態と行動を把握し、全職員一致協力して指導にあたる。
- ② 他人を理解し、尊重する態度を養う。
- ③ 安全教育を徹底し、人命尊重の精神を養う。

(6) 人権教育の推進を図る。

- ① 人間尊重の精神を養う。
- ② 系統的・段階的指導を進める。

(7) ボランティア教育の推進を図る。

- ① 他人を思いやる心、生命を尊重する心など豊かな人間性を育む。
- ② お互いが支えあう社会の仕組みを理解させ、奉仕する心を育成する。

【重点課題】

＜端正な身なり、元気な挨拶、清掃の徹底＞

平成20年度 長崎県立北松西高等学校 学校自己評価【総括評価表】 <最終評価>

| | |
|------|--|
| 教育方針 | ◎ 明るく生き生きとした学校を創り、国際社会で活躍できる心身共に健全で調和のとれた豊かな人間の育成に努める。 |
| 努力目標 | ◆ 小中高一貫教育を進めるとともに、家庭、地域との連携を密にし、一人ひとりを大切にする教育を推進する。 ◆ 広い視野に立って考え、責任と規律ある行動ができる人間の形成を目指す。 ◆ 一人ひとりの進路実現のために、具体的かつ実践的な指導に努める。 |

本年度の努力目標

- (1) 小中高一貫教育の具体的な研究を進める。 (2) 学力の充実と向上を図る (3) 基本的生活習慣の確立を図る。
 (4) 進路指導の充実を図る。 (5) “いじめ”の根絶を図る。 (6) 人権教育の推進を図る。
 (7) ボランティア教育の推進を図る。

| 評価項目 | 具体項目 | 目標 | 具体的方策 | 評価 | | | 成果と課題 | |
|---------------------|--|--|--|----|-----|---|---|--|
| | | | | 中間 | 年度末 | 総合 | | |
| 学校の組織的経営力の充実と向上を図る。 | 自ら判断し、行動する生徒の育成 | 1 学年 高校生としての自覚を持たせ、状況に応じた判断・行動がとれるようにする。 | ①学級活動への積極的な参加 ホームルーム活動に積極的に参加している。 (係活動が日常的に機能していれば 3) | 3 | 3 | B | 次の行動を支持されれば動くことができるが、行事や日常生活の中で、率先して何かをやるという姿勢がもう少し欲しい。1年生という甘えもあると思われる。来年度の成長を期待したい。 | |
| | | | ②部活動への積極的な参加 生徒が積極的に参加している。 (日常的に80%の生徒が活動していれば 3) | 4 | 4 | | | |
| | | | ③学校行事への積極的な参加 積極的に参加し、各学年と協力できた。 (協力的な姿勢が見られたら 3) | 3 | 3 | | | |
| | | 2 学年 中堅学年として自覚を持たせ、地域に開かれた明るい校風の樹立を目指す。 | ①学級活動への積極的な参加 ホームルーム活動に積極的に参加している。 (係活動が日常的に機能していれば 3) | 3 | 4 | A | | ・修学旅行等の行事をそれぞれ意義深いものにできた。 ・部活動への意識は非常に高い。ぜひ良い結果を残してもらいたい。 |
| | | | ②部活動への積極的な参加 95%以上の生徒が参加している。 (日常的に80%の生徒が活動していれば 3) | 4 | 4 | | | |
| | | | ③学校行事への積極的な参加 積極的に参加し各学年と協力できた。 (生徒が自主的に参加できていれば 3) | 4 | 4 | | | |
| 学校運営の円滑化 | 教務 各分掌・学年・教科間の意思疎通を図り、職員協力体制の強化に努める。 教務に関する情報を整理し、効果的かつ継続的に活用できるシステムを構築する。 | ①教職員が安心して仕事ができるように、計画にミスがなくす。 (教務の計画を事前に示し、ミスがなければ 3) | 3 | 3 | C | 多くのトラブルに見舞われた。専門的なことが分かる教員がないので、離島まで業者を呼んだり製品を送ったりしてもらい、業務に支障を来すことがあった。 | | |
| | | ②教職員に役割が明確に伝わるように、わかりやすい実施要項を作成する。 (教務提出の実施要領にミスがなく、役割が明確に伝われば 3) | 3 | 3 | | | | |
| | | ③教職員が快適に日々の仕事ができるように備品・消耗品・周辺機器の整備をする。 (必要なもの・システムが整備され、日々の仕事に支障をきたさなければ 3) | 3 | 2 | | | | |

| 評価項目 | 具体項目 | 目標 | 具体的方策 | 評価 | | | 成果と課題 |
|------------------------|--|---|---|----|-----|--|---|
| | | | | 中間 | 年度末 | 総合 | |
| 学校の組織的経営力の充実と向上を図る。 | 広報活動の充実 | 教務 広報活動を充実させることで、地域、保護者、同窓会、小中学校の理解と協力を得る。 | ①「北松西高だより」の発行 (年5回発行すれば 3、それ以上発行すれば 4) | 4 | 4 | A | 3学期の授業参観期間中に、「小中高一貫教育研究発表会」を行ったので、多くの参観者に来てもらった。今後も公開授業だけでなく、行事と組み合わせていく。 |
| | | | ②授業参観の実施 (每学期実施し、各学期10名以上の参観者があれば 3、15名以上の参加で 4) | 2 | 4 | | |
| | | | ③webページの定期的な更新 (年2回更新すれば 3、それ以上更新すれば 4) | 4 | 4 | | |
| 生徒会執行部・中央委員会・専門委員会の活性化 | 生徒会 生徒会執行部・中央委員会・専門委員会及びホームルーム委員会の連携を密にして、生き生きとした生徒会活動を目指す。 | ①生徒会執行部の自主的活動を支援する。 (生徒会職員の適切な支援ができれば 3) ②各種専門委員会の努力目標を設定して、活性化をする。 (各専門委員会の努力目標が達成できれば 3) | 4 | 4 | A | 一生懸命に取り組んでいた。 | |
| | | | 4 | 4 | | | |
| 生徒及び教職員の健康の保持増進 | 保健 生徒及び教職員の健康の保持増進を図り、自分の健康に関心を持たせる。 | ①定期健康診断を実施し、治療及び予防に努める。 (受診勧告書を発行し、受診後は報告書を提出させたら 3、全員の提出があれば 4) ②健康診断・保健指導を実施し、適切な指導・援助を行う。 (計画どおりに実施したら 3、問題解決につながるような援助ができれば 4) ③健康の保持増進を図るため、できるだけ多くの情報提供を行う。 (毎月、臨時の情報提供を行ったら 3、計画どおりに発行できれば 4) | 2 | 2 | C | 検診については、歯科で所見のある生徒が多いが、受診率は低いという状況にある。再度、保健指導・受診勧奨を行ったが、治療報告書の提出増加までには至っていない。ノロウイルスやインフルエンザなどの感染症やその他保健指導において、小中学校や町の健康管理センターとの連携がとれた上で指導できたことは良かった。保健室利用は1日平均1.7名(昨年1.2名)。体調や精神面で不安定な生徒がいるので、引き続き関係職員と連絡相談しながら、指導・援助していきたい。 | |
| | | | 3 | 3 | | | |
| | | | 3 | 4 | | | |
| 保健委員会活動の活性化 | 保健・生徒会 日常生活の健康問題に関心を持たせ、情報提供活動を推進する。 | ①保健だよりや提出物を作成させ、資料や情報を提供する。 (毎月計画どおりに実施したら 3、各学期に2回の情報提供ができれば 4) ②トイレ・手洗い場が安全・衛生的に使用されるようにする。 (毎月計画どおりに実施したら 3、実施結果の集計・発表ができれば 4) | 4 | 4 | B | ・保健だより及び掲示物は定期的に発行できている。 ・掃除道具の整備を行ったので、引き続き美化活動を進めていきたい。 | |
| | | | 3 | 3 | | | |
| 施設・設備の健康・安全対策 | 保健・事務部 定期的に校内施設・設備の安全点検を実施し、健康・安全対策を講じる。 | ①保健部・学校薬剤師による環境安全点検(校舎内外)を実施し、問題点があれば、速やかな対策を講じる。 (点検を計画どおりに実施したら 3、問題点に対して速やかな対応策を講じた場合 4) ②生徒保健委員会による学習環境の安全衛生点検を実施する。 (点検を計画どおりに実施したら 3、問題点に対して速やかな対応策を講じた場合 4) | 4 | 4 | A | ・学校薬剤師による環境衛生検査は、計画どおりに実施された。 ・安全点検は、予定どおりに実施され、危険箇所の改善も早急に対応されている。職員室・休養室の点検や職員による改善要望調査も今後実施していきたい。 | |
| | | | 4 | 4 | | | |

| 評価項目 | 具体項目 | 目標 | 具体的方策 | 評価 | | | 成果と課題 | | |
|---|--|---|---|--|----|----|---|-------------------------------|---|
| | | | | 中間 | 最終 | 総合 | | | |
| 学力の充実と向上を図る。 | 教育課程の充実 | 教務 創意工夫を凝らした適切な教育課程の実践に努める。 | ①目標にあった特色ある教育課程を編成する。 (年間計画どおり教育課程委員会が開催できれば 3) ②生徒の志望進路達成に資する選択可能な講座を編成する。 (年間計画どおり選択希望調査をおこなえば 3) ③教育課程の編成にあたっては、定期的に点検する。 (7月と3月に点検し、計画どおりに実施していれば 3) | 3 | 3 | B | 生徒数の減少により、3～4人の講座が増えることが予想される。 | | |
| | 総合的な学習の時間の充実 | 教務 総合的な学習の時間を計画的に運営し、内容の充実を図る。 | ①総合的な学習の時間の年間計画を立てる。 (学習内容のバランス・担当人数のバランス・担当時間などに配慮して年間計画が立てられれば 3) ②総合的な学習の時間を運営する。 (円滑に実施できるように、実施計画を調整したり、主担当者へ連絡ができたれば 3) ③今年度の反省をし、次年度の計画を立てる。 (担当者に今年度の反省をしてもらい、それを元に次年度の計画を年度末の職員会議に提案できれば 3) | 3 | 3 | B | 「グローアップ科」「遣未来使学」に進じて行っているため、それぞれの部会が早めに動いてくれないと、次年度の予定が立てにくい。 | | |
| ①毎時間の授業の充実・徹底を図り、年間指導計画の完全実施に努める。 ②学習のつまずきの究明と対策を講じるとともに、学習指導法の工夫と改善に努める。 ③生徒の能力・適性に応じた個別指導の徹底を図る。 ④情報化社会に対応できる生徒の育成に努める | 授業研究 計画的で分かりやすい授業を研究し、実践する。 | 国語 | ①授業計画表について検討し、情報交換をする。 (学期に1回できれば 3) | 4 | 4 | A | 各学年とも生徒間の学力差は埋まらず、大きな向上は見られない。学級分けのなされていない第一学年においては、特に入念に情報交換と計画を実施したい。ただし、あくまで学力向上が最終目標であるため、以後一層の検討を図りたい。 | | |
| | | | ②学年・学級内の学力差対策について検討し、情報交換する。 (学期に1回できれば 3) | 4 | 4 | | | | |
| | | | ①短作文を書く活動を指導の中に取り入れる。 (各クラスとも3回実施できれば 3) | 3 | 3 | | | B | 多くの生徒は短作文をはじめとした、「文章を書くこと」を苦手としている。また、「書くための情報収集」においては、さまざまな情報を収集する能力はあるものの、インターネットに偏る傾向が見られた。今後も継続して指導を続けたい。 |
| | | | ②「少年の主張」を書かせる。 (推敲によって内容が深まった者が7割いれば 3) | 3 | 3 | | | | |
| | (小)中高一貫教育 (小)中高職員で協力し、継続的な指導の研究を行う。 | 国語 | ③書くための情報収集の方法を学ばせる。 (年に1回実施できれば 3) | | 4 | C | 「まつかぜ」作品に関しては、例年どおり、「標語」に類するような作品が多かったため、俳句・短歌の指導に力を入れたい。また、小中高の校種間の情報交換は昨年度に引き続きなされなかった。より一層の呼びかけを実施したい。 | | |
| | | | ①「まつかぜ」の制作を通して、作品を創造する喜びを体験させる。 (一人二首ずつ提出できれば 3) | | 3 | | | | |
| | 地理歴史 | 基礎学力の充実 授業方法の研究、教材研究の充実により、わかりやすい授業を行う。また、小テストの実施により生徒の知識の定着を確認し、授業に生かす。 | 公民 | ①小テストの実施 (4回以上実施できたら 4、3回 3、2回 2、1回 1) | 4 | 3 | B | 今後も同様に指導していきたい。 | |
| | | | | ②対外試験対策を利用した基礎知識の定着 (3回以上実施できたら 4、2回 3、1回 2、0回 1) | 4 | 4 | | | |
| | 公民 | 公民的資質の育成 時事問題に興味関心を持たせ、公民的資質を身に付けさせる。 | 公民 | ①新聞記事などを随時ピックアップして、生徒に配布する。 (各月3回以上実施できたら 4、2回 3、1回 2、0回 1) | 3 | 3 | B | 時事問題を取り上げた授業ができた。今後も継続していきたい。 | |
| | | | | ②授業の中で社会に関する時事問題を取り上げ、紹介・解説を行う。 (各月3回以上実施できたら 4、2回 3、1回 2、0回 1) | 4 | 3 | | | |

| 評価項目 | 具体項目 | 目標 | 具体的方策 | 評価 | | | 成果と課題 | | | | |
|-------------|--|--|---|---|--|----|-------|---|---|---|---|
| | | | | 中間 | 最終 | 総合 | | | | | |
| 学力の充実と向上を図る | <p>①毎時間の授業の充実・徹底を図り、年間指導計画の完全実施に努める。</p> <p>②学習のつまずきの究明と対策を講じるとともに学習指導法の工夫と改善に努める。</p> <p>③生徒の能力・適性に合った個別指導の徹底を図る</p> <p>④情報化社会に対応できる生徒の育成に努める</p> | 数 | <p>基本的な計算技術の習得と習熟</p> <p>整式計算ができるようになる。様々な方程式を解けるようになる。</p> | <p>①生徒の実情に合った問題をそれぞれ用意し、授業や課題、帯タイム等を利用して解かせる。(ほとんどの生徒が正解できたら 3)</p> <p>②就職試験や入試問題を家庭学習課題にして、学習の動機付けにする。(ほとんどの生徒が取り組んだら 3)</p> | 3 | 3 | B | 問題への取組は良好であった。しかし、計算力に不安のある生徒が多いように感じる。今後も、継続しての指導が必要である。 | | | |
| | | | 学 | <p>図形の基本的な性質の理解</p> <p>角度を求めることができる、立体の体積や表面積を求めることができる、円の性質を理解する。</p> | <p>①生徒の実情に合った問題をそれぞれ用意し、授業や課題、帯タイム等を利用して解かせる。(ほとんどの生徒が正解できたら 3)</p> <p>②就職試験や入試問題を家庭学習課題にして、学習の動機付けにする。(ほとんどの生徒が取り組んだら 3)</p> | 3 | | | 3 | B | 基本的な性質については、だいたい理解できた。しかし、論証力(証明)に不安が残る。順序立てて説明する能力は必要不可欠であるので、今後、指導に力を入れていきたい。 |
| | | | | <p>数学への興味関心を喚起する</p> <p>自主的に家庭学習に取り組ませる。</p> | <p>①生徒の実情に合った課題をだし、家庭学習の習慣を付ける。(ほとんどの生徒が取り組んだら 3)</p> <p>②定期考査前にしっかりと勉強させ、それぞれの目標以上の点数を取らせる。(ほとんどの生徒が目標以上の点数を取れたら 3)</p> | 3 | | | 3 | | |
| | | | 理 科 | <p>生徒の主体的な学習態度を育成する。</p> <p>生徒に学習の見通しを立てさせ、計画的・主体的に取り組ませる。また、学習に対する取組・理解度を生徒に自己評価させ、その後の学習活動にフィードバックさせる。</p> | <p>①シラバスを作成し、計画に基づいて実施する。(シラバスを作成し、7割程度実施できたら 3、ほぼ計画どおり実施できたら 4)</p> <p>②各単元の終わりに、生徒に自己評価させる。(平均が、2.5以上であったならば 3、平均が、3.5以上であったならば 4)</p> | 4 | | | 4 | B | 単元ごとに自己評価させるのは時間的に無理がある。来年度への課題とする。 |
| | | <p>科学に対する興味関心を深めさせる。</p> <p>実験観察や視覚教材を用いた授業により、生徒の科学に対する興味関心を深め、探求的な態度を育成する。</p> | | <p>①実験観察を行う。(半期に2回実施できれば 3、3回以上実施できれば 4)</p> <p>②実験器具・設備を充実させる。(実験観察に支障をきたさない程度、器具・設備が整っていれば 3)</p> | 4 | 4 | B | 実験器具は充実してきたが、実験準備の時間がなく、生徒実験が少ない。また、専門でない科目の実験が困難である。 | | | |
| | | 基礎学力の充実 | | <p>分かりやすい授業を研究し、実践する。また、週末課題や小テストを計画的に行い、生徒の基礎学力を向上させる。</p> | <p>①公開授業の実施(小中学校理科担当も参加し、2人とも年1回以上実施できれば 4、1人のみ年1回以上 2)</p> <p>②週末課題の実施(半期に7~9回実施できれば 3、10回以上実施できれば 4)</p> <p>③小テストの実施(1単元毎に2回実施できたら 3、3回以上実施できたら 4)</p> | | | | 3 | B | 2人で10回以上の公開授業を行った。しかし、小中の先生は時間の折り合いがつかず、参加できなかった。 |
| | | | | | | 4 | 4 | | | | |
| | | | | | 4 | 4 | | | | | |

| 評価項目 | 具体項目 | 目標 | 具体的方策 | 評価 | | | 成果と課題 | |
|--|---|--|--|--|----|----|---|---|
| | | | | 中間 | 最終 | 総合 | | |
| 学力の充実と向上を図る | ①毎時間の授業の充実・徹底を図り、年間指導計画の完全実施に努める。 ②学習のつまずきの究明と対策を講じるとともに学習指導法の工夫と改善に努める ③生徒の能力・適性に応じた個別指導の徹底を図る。 ④情報化社会に対応できる生徒の育成に努める | 保健体育 | 新体力テストの活用 新体力テストを活用し、自己の体力状況を把握する。 | ①新体力テストを実施する。 (新体力テストを5月までに実施し、95%以上の生徒が検査を受ければ 3) | 4 | / | B | 新体力テストの20mシャトルランにおいては、各学年とも素晴らしい成績であったが、男子1500m、女子1000m走を計測してみると、思ったような結果が出なかった。今後も持久走、8分間走などを通してタイム短縮に努めていきたい。 |
| | | | ②新体力テストの検査結果情報を提供する。 (検査結果を7月までに生徒・部活動顧問に配布できれば 3) | 3 | / | | | |
| | | 健全な健康の価値観を形成させる。 保健的な知識を身につけ、健全な健康の価値観を身に付ける。 | ①視聴覚教材を積極的に活用する。 (生徒に視覚的に情報を伝え、より理解度を高められれば 3) | 3 | 2 | C | 3年生に対し、卒業前の性教育ができた。生徒は、自分を守ること、同時に相手も守ることが大切だと気づくことができたようだった。 | |
| | | ②正しい知識に基づいた性のあり方について理解させる。 (性についてのアンケートを実施し、卒業生に性教育を行えれば 3) | / | / | 4 | | | |
| | 基礎体力の向上を目指す。 基礎体力を向上させ、学校生活の充実を図る。 | 基礎体力の向上を目指す。 基礎体力を向上させ、学校生活の充実を図る。 | ①授業に8分間走を取り入れる。 (実施率が65%以上であれば 3、80%以上であれば 4) | 3 | 3 | B | 走行前後の脈拍数を計ることにより、少しずつ各自の体調を知ることができるようになってきている。体育大会後は、積極的に8分間走を取り入れ、男子1500m走、女子1000m走を計測も行った。また、2学期終了からは、マラソン大会練習を中心にを行い、体力向上につながった。 | |
| | | | ②8分間走記録シートを作成し、活用する。 (記録シートを使い、自己記録や通算走行距離を知ることによって、自己の体力を客観的にとらえ、将来にわたり健康な生活を営む基礎体力の向上が図れたら 3) | 4 | 4 | 4 | | |
| | 芸術 | 協同的な学びの実現 学び合う関係、学びの場としての教室の雰囲気構築する。 | ①小集団での活動の実践 (3~4名の小グループによる活動を取り入れ、生徒同士の学び合うかわりが築かれたら 3) | 3 | 3 | B | ・グループに応じた課題設定(選曲)を行うことができた。 ・グループの目標に向ける、個人の目標設定が必要である。 | |
| | | | ②「聴きあう」場の創出。 (互いを聴き合う発表等を通じて、相互に聴き合う関係が築かれたら 3) | 3 | 3 | 3 | | |
| | | 生徒の主体的音楽表現能力の育成 生徒に音楽芸術を身近に感じさせ、主体的な表現能力の育成を目指す。 | 生徒の主体的音楽表現能力の育成 生徒に音楽芸術を身近に感じさせ、主体的な表現能力の育成を目指す。 | ①個別または小集団での実技試験の実施 (個別または小集団での実技試験を実施することができたなら 3) | 3 | 3 | B | 授業内で実技発表の場を多く設定することで、意欲的に授業に参加する態度が見られた。 |
| | | | | ②ソルフェージュ力向上のための取組 (視唱、聴音、歌唱や器楽曲の階名唱指導を実施することができたら 3) | 3 | 3 | 3 | |
| | 生徒の主体的音楽鑑賞能力向上 生徒に音楽芸術を身近に感じさせ、主体的な鑑賞能力の育成を目指す。 | 生徒の主体的音楽鑑賞能力向上 生徒に音楽芸術を身近に感じさせ、主体的な鑑賞能力の育成を目指す。 | ①鑑賞と表現領域との関連性を持たせた授業の展開 (鑑賞、表現の両領域を関連づけ、学習の深化を図ることができたら 3) | 3 | 3 | B | 鑑賞授業ではポイントを明確に示し、一人一人がねらいに沿って鑑賞することができた。鑑賞で得たものを表現につなげる更なる工夫が必要である。 | |
| | | | ②相互の演奏鑑賞や作品発表の場を設ける。 (生徒相互の演奏鑑賞、作品の鑑賞の機会を設けることができたなら 3) | 3 | 3 | 3 | | |
| | 家庭 | 学校家庭クラブ活動の推進 学校家庭クラブ活動を通して奉仕の心・協調性を養い、人間関係の幅を広げる。 | ①学校家庭クラブ活動について学ぶ。 (学校家庭クラブ活動について理解させることができたなら 3) | 3 | / | B | 卒業生へのプレゼント「自炊のすすめ」を制作することができた | |
| | | | ②文化祭で食物バザーを実施する。 (役割を責任を持って行う姿勢が見られたら 3) | 3 | / | | | |
| | | | ③卒業生へのプレゼントを作る。(内容の点検や印刷、製本に関わらせることができたなら 3) | / | 3 | | | |
| | | 家庭生活を営むために必要な能力を身につける。 家庭生活について、自立して主体的に営む視点を身に付ける。 | 家庭生活を営むために必要な能力を身につける。 家庭生活について、自立して主体的に営む視点を身に付ける。 | ①家庭生活の中にある問題点に気付く。 (家庭生活に関するテーマについて調べ、まとめさせることができたなら 3) | 3 | / | B | 積極的に実習に取り組む様子が見られた。時間割の変更が難しく、なかなか2時間続きで実習を行うことができないという現状がある。 |
| ②被服製作の実践 (基礎的な技術を使って作品を完成させることができたなら 3) | 3 | | | / | | | | |
| ③調理の工夫と実践 (安全に配慮し、栄養的に満たされた調理実習を行うことができたなら 3) | / | | | 3 | | | | |

| 評価項目 | 具体項目 | 目標 | 具体的方策 | 評価 | | | 成果と課題 | |
|-------------|--|---|--|----|----|--|---|--|
| | | | | 中間 | 最終 | 総合 | | |
| 学力の充実と向上を図る | ①毎時間の授業の充実・徹底を図り、年間指導計画の完全実施に努める。 ②学習のつまずきの究明と対策を講じるとともに学習指導法の工夫と改善に努める | 家庭 少子高齢者について理解する。 少子高齢社会に生きる小値賀島の生活を見つめる。 | ①乳幼児ふれあい体験 (乳幼児について興味を持たせ、乳幼児ふれあい体験に積極的に参加させることができれば 3) | 3 | 3 | B | 具体的な数値やグラフ等で小値賀島及び日本の高齢化の現状について理解することができた。高齢者とふれあう機会がないので、今後実習などができないか検討する。 | |
| | | | ②高齢者の心と体 (エイジングによる心や体の変化を理科させることができれば 3) | | | | | 3 |
| | | | ③小値賀島及び日本全体の高齢者の人口と課題 (小値賀島及び、日本全体の高齢者の人口と課題を見付けさせることができれば 3) | | | | | 3 |
| | ③生徒の能力・適性に応じた個別指導の徹底を図る。 ④情報化社会に対応できる生徒の育成に努める | 英語に対する基本的な知識の習得 基礎学力の徹底に努める。 | ①小テストの実施 (構文や単語の小テストを継続的に実施し、6割の生徒が7割以上の得点率だったら 3、7割以上の生徒が7割以上の得点率だったら 4) | 3 | 3 | B | | 各学年で小テストによる指導を継続して行い、基本事項の定着を図った。生徒の取組状況も良い。 |
| | | | ②各種テストのやり直しノートの提出 (各種テストのやり直しを確実に提出させたら 3、7割以上の生徒が毎回確実に提出したら 4) | 3 | 3 | | | |
| | | 英語学力と英語運用能力の向上 生徒一人ひとりの英語学力の向上に努める。 | ①進路目標に応じた英語指導の充実を図る。 (考査や模擬試験の結果を分析して指導に反映していれば 3、効果的な指導ができれば 4) ②検定などを有効に利用し、生徒の意欲を高める。 (英検などの検定の告知を十分に行い、受験人数を増やすことができれば、また、受検指導が十分に行われ8割の生徒が目標とする級に合格できれば 3) ③あらゆるレベル・ニーズに合わせた指導を行い、生徒の意欲を高めるとともに目標達成を助ける。 (各生徒のレベルに対応できる授業や教材の工夫をした指導がなされていれば 3、効果的な指導、継続的な指導ができれば 4) | 3 | 3 | B | | 試験の結果を分析した上で、対策、指導を行い、徐々にではあるが、成果があらわれてきている。 |
| | 3 | | | 3 | | | | |
| | 3 | | | 3 | | | | |
| | 授業内容と教科指導の充実 生徒の英語に対する関心が高まるようにわかりやすい授業を行う。 | ①綿密な指導計画と十分な教材研究によって生徒が学習意欲を高め、理解を深められる授業を行う。 (計画に従い、十分な教材研究を行い授業に臨んだ結果、生徒の学習意欲を高まり、理解が深まったら 3、効果的な指導ができ、8割の生徒が予習をして授業を受け、英語の理解が深まれば 4) ②ALTと協力し合い、生徒が英語学習を通じて、文化に興味を持ち、理解を深めることができる授業を展開する。 (ALTと十分に話し合い、授業計画を立て、その計画に沿って効果的に指導ができれば、また、生徒が楽しみながら積極的に授業に参加していたら 3、効果的な授業が展開でき、8割の生徒が積極的に授業に参加していたら 4) | 3 | 3 | B | 教材等を工夫し、各生徒の能力や進路に応じた授業に努めた。また、アメリカ修学旅行団との交流会においても、英語を用いて積極的に発表やコミュニケーションを図る等の成果が見られた。 | | |
| | | | 4 | 4 | | | | |

| 評価項目 | 具体項目 | 目標 | 具体的方策 | 評価 | | | 成果と課題 |
|-------------|---|--|--|----|----|---|---|
| | | | | 中間 | 最終 | 総合 | |
| 学力の充実と向上を図る | 学力の充実と進路指導の徹底 | 1 学年 総学や個別指導を通じて、各人の進路設計を確立させる。 | ①家庭学習の充実 (毎日1時間30分以上の家庭学習時間を確保する。学習と生活の記録調査で50%いれば 3) | 2 | 2 | C | 学習への取組が足りない生徒が多い。進路については多少考えるようになってきたと思われる。今後も継続して指導していきたい。 |
| | | | ②学力に応じた個人指導 (進路や学力に応じて、添削などの個別指導を受けるよう指導する。生徒が積極的に受講するれば 3) | 3 | 3 | | |
| | | | ③個人面談の充実 (個人面談、家庭訪問を実施する。予定どおり実施できれば 3) | 3 | 3 | | |
| | 2 学年 学力の充実と進路指導の徹底を通して、自己認識を深めさせ、各人の進路設計を確立する。 | ①個人面談の充実 (個人面談、家庭訪問を実施する。予定どおり実施すれば 3) | 3 | 3 | C | <ul style="list-style-type: none"> 三者面談等は予定どおり実施できた。 授業態度は良くなっている。自主的な家庭学習へつながるよう意識を高めさせたい。 | |
| | | | ②学力に応じた個人指導 (進路実現や学力充実のために添削を実施する。生徒が積極的に受講すれば 3) | 3 | | | 3 |
| | | | ③家庭学習の充実 (毎日1時間30分以上の家庭学習時間を確保する。家庭学習調査で50%以上いれば 3) | 2 | | | 2 |
| 学習の充実 | 3 学年 学力の充実を図り、各自の進路希望の実現に向けて努力させる。 | ①添削指導や補充指導等の機会を増やし、個々の能力に応じた指導を行う。 (個々の能力に応じた添削指導や補充指導を実施したと70%の教職員が判断したら 3、70%以上ならば 4) | 3 | 3 | B | <ul style="list-style-type: none"> 生徒は、一定の家庭学習時間を確保して努力していた。 添削指導などの個別指導にも積極的に取り組んでいた。 | |
| | | ②家庭学習の習慣化を図る。 (80%の生徒が、毎日一定時間の学習学習の習慣がついていれば 3、80%以上ならば 4) | 3 | 3 | | | |

| 評価項目 | 具体項目 | 目標 | 具体的方策 | 評価 | | | 成果と課題 | |
|---|---|---|---|--|----|--|---|--|
| | | | | 中間 | 最終 | 総合 | | |
| 進路指導の充実を図る。 | ①地域の期待と信頼に応える工夫をする。 ②進路相談の充実に努める。 ③進路指導の資料充実とその活用を図る。 | 進路指導 | 学力の向上 補習や模試・添削指導を通して学力の向上をめざす。 | ①補習や模試を積極的に受け、活用する。 (月間の遅刻・欠席者がクラスの10%以下であれば 4) | 4 | 4 | B | 予定していた補習・模試をすべて実施できた。さらに、今年は各大学別オープン模試を積極的に実施した。 |
| | | | ②公務員採用試験の学習の指導 (計画どおりにできれば 4) | 3 | 3 | | | |
| | | 計画的な進路指導 進路検討会などを通じて、進路指導に計画性をもたせる。 | ①進路適性検査の実施 (進路適性検査の結果を活かした面談ができれば 4) | 3 | 3 | B | 進路検討会、出願校検討会等を行い、生徒の具体的な指導に生かすことができた。 | |
| | | | ②進路検討会の実施 (検討会の結果を基に指導の見直し等ができれば 4) | 4 | 4 | | | |
| | 進路意識の向上 情報の収集・提供を通じて生徒の能力・適性に合った進路達成をめざす。 | ①進路講演会の実施 (講演会を実施し、生徒の満足度が高ければ 4) | / | / | B | 進路講演会については、講師の先生の都合で、3月実施予定となった。 | | |
| | | ②進路情報の提供 (「進路のしおり」等を発行し、適切な進路情報を紹介できれば 4) | 3 | 3 | | | | |
| 進路希望の実現 | 3学年 個々の進路目標を明確にさせ、進路達成に向けての取組を充実させる。 | ①生徒が必要とする情報を必要とされる時期に適宜提供し、進路意識の向上を図る。 (80%の生徒が具体的な進路先を示すことができれば 3、80%以上であれば 4) ②個人・3者面談を適宜行い、家庭と学校との共通理解のもと進路指導を行う。 (各学期2回面談が実施できれば 3、3回以上であれば 4) ③オープンキャンパス、講習会、説明会への参加を奨励し、正確な情報をもとに進路決定させる。 (50%以上の参加があったら 3、6割以上が参加したら 4) | 4 | 4 | B | ・結果がまだ出ていない生徒もいるが、ほぼ全員が希望の進路を実現させることができた。 ・進路指導部と協議をしながら、生徒への具体的な指導ができた。 ・大学受験組の学習会で学習への意識が高まり、いい緊張感を持つことができた。 | | |
| | | | 3 | 4 | | | | |
| | | | 3 | 3 | | | | |
| 基本的な生活習慣の確立を図る | 生徒の意識と実態の把握 | 保健部(教育相談) 機会をとらえて、生徒の実状をつかみ、効果的な指導を行う。 | ①諸検査・各種調査を実施し、生徒の実態をつかむ。 (計画どおりに諸検査・各調査を実施し、その結果の報告を行うと 4) | 4 | 4 | C | 今年度は、教育相談にかかる生徒がでなかったのがよかった。来年度は、Σ検査やクレペリン検査のあり方について、研修を行っていきたい。 | |
| | | | ②個人面談や問題を抱える生徒との面談を行う。 (個人面談やカウンセリング活動を実施したら 4) | 4 | 3 | | | |
| | | | ③諸検査・各種調査の有効的な活用を図る。 (諸検査の見方・考え方や各調査の分析結果を全職員で研修できれば 4) | 2 | 2 | | | |
| | 特別支援教育に関する研究および実態把握 | 保健部(特別支援) 特別支援教育について教員の研修に努めるとともに、特別支援を必要とする生徒の実態把握に努める。 | ①特別支援教育に関する職員研修の実施 (専門の講師による特別支援教育研修を実施したら 4) | 2 | 4 | A | 今年度も小中高における特別支援研修会を実施することができてよかった。高等学校においてできる特別支援教育のあり方について、今後も考えていきたい。 | |
| ②特別支援教育を必要とする生徒の実態把握 (職員会議などで、職員全体に特別支援教育を必要とする生徒の実態把握を促したら 3) | | | 3 | 4 | | | | |

| 評価項目 | 具体項目 | 目標 | 具体的方策 | 評価 | | | 成果と課題 |
|----------------------------|--|---|---|----|----|--|--|
| | | | | 中間 | 最終 | 総合 | |
| 基本的生活習慣の確立を図る | 基本的生活習慣の確立 | 生徒指導 校則を守り、充実した学校生活を送る。 | ①端正な服装・頭髪をこころがけさせ、高校生としてふさわしい清潔な容姿を身につけさせる。 (全校集会・学年集会を通じ校則を周知し、服装・頭髪検査を実施できたら 3) | 3 | 3 | B | ・服装、頭髪ともに違反する生徒が減ってきた。今後とも、担任・学年団と協力して指導していきたい。 ・自転車乗車マナーについては、前期より改善されてきたが、引き続き指導が必要である。 |
| | | | ②地域の行事において、飲酒・喫煙を未然に防ぐ。 (各種の機会をとらえ、未成年者の喫煙や飲酒が身体や精神の健康に悪影響を及ぼすこと周知し、高校生の飲酒・喫煙をなくすことができれば 3) | 4 | 4 | | |
| | | | ③自転車通学マナー向上により、交通ルールの遵守を目指す。 (4月と11月の自転車点検で合格が80%以上で 3) | 2 | 3 | | |
| | 保護者、地域社会との連携 | 生徒指導 保護者、地域社会との連携により、学校と一体になって生徒の健全な育成を目指す。 | ①夏季長期休業中に保護者と合同で夜間巡視を行う。 (夜間巡視を計画し、予定どおり実施できれば 4) | 4 | 4 | A | PTA や地域、警察と連携し、様々な活動をスムーズに行うことができた。次年度も保護者、地域、警察の協力を得ながら進めていきたい。 |
| | | | ②長期休業日の前に保護者・生徒に「長期休業中の心得」を配布する。 (「長期休業中の心得」を年に3回配布できれば 4) | 4 | 4 | | |
| | | | ③中学校・警察・町の健全育成会などと情報交換し、地域社会と協力して生徒の健全育成に取り組む。 (中学校との生徒指導部会・交通安全協議会・町の健全育成協議会・生徒指導部会などの関係会議にすべて出席できたら 4) | 4 | 4 | | |
| | 文化部・体育部活動の活発化を図る。 | 生徒会 学習との両立を基本とした部活動を推進する。 | ①全員入部を目指す。 (部活動調査を実施し、加入率が8割以上で 4) | 4 | 4 | A | とても熱心に活動していた。試合等でも成果が現れ、来年度も期待が持てる。 |
| | | | ②日常の活動を充実させる。 (活発な活動がおこなわれていれば 3) | 4 | 4 | | |
| | | | ③部室点検をする。 (学期ごとに顧問と生徒会で実施する。問題がなければ、4) | 4 | 4 | | |
| | 挨拶の励行、校則の遵守、学校行事への積極的参加等によって、生活指導の充実を図る。 | 1 学年 自主的に行動する生徒を育てる指導を行う。 | ①端正な服装・頭髪への心掛けを持たせる。 (服装頭髪検査を定期考査毎に実施する。90%の生徒が合格すれば 3) | 3 | 3 | B | 服装頭髪といった身なりへの心がけは、この1年間である程度気がけることができるようになった。今後も継続して指導していきたい。 |
| | | | ②清掃活動への積極的な取組を促す。 (清掃活動に対し、積極的に取り組む。60%以上の生徒が取り組めば 3) | 2 | 3 | | |
| | | | ③挨拶の励行を促す。 (誰とでも挨拶を行う。日常的に挨拶を行う姿勢があれば 3) | 2 | 3 | | |
| 2 学年 校則を守り、充実した学校生活を送る。 | | ①端正な服装・頭髪を心がける (服装頭髪検査を定期考査毎に実施する。90%の生徒が合格すれば 3) | 2 | 2 | C | ・一部にまだ眉そりの生徒がいる。 ・最高学年となり、就職や進学の時期であると再度生徒に徹底させ自律を促したい。 | |
| | | ②公共物を大切に扱う。 (校内の備品を大切に扱い、破損をなくす。教室、廊下、関係箇所破損がなければ 3) | 3 | 3 | | | |
| | | ③自転車通学のマナーを向上させる。 (自転車の安全整備をきちんと行う。検査合格が80%以上で 3) | 3 | 4 | | | |

| 評価項目 | 具体項目 | 目標 | 具体的方策 | 評価 | | | 成果と課題 |
|---|------------------|---|--|----|----|----|---|
| | | | | 中間 | 最終 | 総合 | |
| 基本的生活習慣の確立を図る | 基本的生活習慣の充実 | 3学年 高校生としての基本的生活習慣を身に付けさせ、最高学年としての落ち着いたある生活態度、各種行事へのリーダーシップの向上を図る。 | ①規則正しい生活習慣を身に付けさせ、遅刻・欠席をなくすことを目指し、必要に応じて保護者と連携しながら指導する。 (月間の遅刻・欠席者数がクラスの10%以下であったら 3、10%未満であれば 4) | 4 | 4 | B | ・欠席や遅刻はほとんどなかった。 ・服装検査では、検査の時はきちんとするが、普段はできていない生徒が若干いた。 ・学校行事では、下級生をリードし、最高学年として自覚を持って責任を立派に果たした。 |
| | | | ②清潔感あふれる端正な服装の着用を指導する。 (各学期2回服装検査を行い、90%の生徒が検査項目をきちんと守っていたら 3、10%未満であれば 4) | 3 | 4 | | |
| | | | ③学校行事や部活動を通してリーダーシップの発揮を促す。 (生徒に対して、リーダーシップをとれるような指導ができたと教員の70%が判断したら 3、70%以上であれば 4) | 3 | 3 | | |
| 「心の教育」に基づく教育活動の実践を図る | 問題を抱える生徒の早期発見と対処 | 保健部（教育相談） 学年及び分掌との連携を密にし、生徒の持つ問題点や悩みの解消に努める。 | ①担任との情報交換、諸検査の活用で問題を抱える生徒を早期発見する。 (担任との情報交換の場を3回以上設定し、生徒の実態を知る手立てをしたら 4) | 4 | 3 | B | 年度末になり、学校に出てこれない生徒が出たが、担任及び養護教諭の指導により解決した。来年度も、教員間の情報交換を行っていききたい。 |
| | | | ②学年・保健室と連携し、問題を抱える生徒のカウンセラー活動を行う。 (学年・保健室と密に連携し、生徒の実態を知る機会を3回以上持つことができたなら 4) | 4 | 3 | | |
| | 学校行事への積極的参加 | 生徒会 学校行事への積極的参加を呼びかけ、生徒の自主的運営を通して協調性や連帯感など心のふれあいを深める。 | ①歓迎遠足を通して心のふれあいを深める。 (終了後、生徒会執行部・職員で話し合いを実施し、効果が認められたら 3、「とても」と「だいぶ」を合わせて80%以上で 4) | 4 | / | A | 行事に対して積極的に取り組んでいた。 |
| ②文化祭に積極的に取り組む。 (積極的に取り組み、生徒・地域の方々・職員が楽しめた。職員アンケートを実施し、効果が認められたら 3、「とても」と「だいぶ」を合わせて80%以上で 4) | 4 | / | | | | | |
| ③校内球技大会に取り組むことで、協調性や連帯感を養う。 (積極的に取り組み、生徒・職員が楽しめた。職員アンケートを実施し、効果が認められたら 3、「とても」と「だいぶ」を合わせて80%以上で 4) | / | 4 | | | | | |
| “いじめ”の根絶を図る | 担任・カウンセラーとの連携 | 生徒指導 学年及び分掌との連携を密にし、生徒の持つ問題点や悩みの解消に努める。 | ①学年・担任・教育相談部・保健室と定期的に情報交換を行う。 (月1回情報交換会を実施できれば 3) | 3 | 3 | B | 必要に応じて情報交換を行い、生徒の情勢把握に努めた。今年度も特に問題はなく、教育相談委員会も開催しなかった。 |
| | | | ②教育相談委員会を必要に応じて開き、共通理解のもとに対応施策を考える。 (委員会の結果、過半数の職員が状況の変化・改善を認めたら 3) | / | / | | |
| | | | ③いじめ防止に生徒が自主的に取り組む。 (学校行事や部活動などを通じて、お互いを大切にし、秩序ある人間関係を築けたら 3) | 3 | 3 | | |
| 人権教育の推進を図る | 人間尊重の精神を養う。 | 人間尊重の精神を養う。 | ①「心の教育講演会」を一分掌（保健：教育相談）の行事にせず、学校全体で組織的に行う。 ②「人権集会」を一分掌（教務）の行事にせず、学校全体で組織的に行う。 | / | 3 | B | 小中学校との話し合いを踏まえ、発達段階に応じた内容にすることができた。また、「心の教育講演会」では、携帯電話・インターネットの功罪についても学習することができた。 |
| | 系統的・段階的指導を進める。 | 系統的・段階的指導を進める。 | ①「心の教育講演会」及び「人権集会」では、小中高一貫教育の枠組である、前・中・後期を考慮し、発達段階を踏まえた内容になるようにする。 | / | 3 | | |

| 評価項目 | 具体項目 | 目標 | 具体的方策 | 評価 | | | 成果と課題 |
|---------------------|------------|------------------------------------|---|----|----|----|--|
| | | | | 中間 | 最終 | 総合 | |
| 小中高一貫教育の具体的な研究を進める。 | 小中高一貫教育の推進 | 教務 | ①小中高一貫教育に関する会議日を設定する。 (毎月1度「小中高会議日」を設定できれば 3) | 4 | 4 | A | 教務主任会を定期的に行うことによって、小中高一貫教育関連の業務が円滑に進むようになった。 |
| | | 小中高一貫教育の研究・活動の充実を図り、その教育方針の達成を目指す。 | ②小中高一貫教育に関する行事を設定する。 (小中高一貫の行事を年間3回以上設定できれば 3) | 4 | 4 | | |
| ボランティア活動の推進を図る | 豊かな人間性教育 | 思いやる心、生命を尊重する心など豊かな人間性を育む。 | ①「心の教育講演会」を一分掌(保健:教育相談)の行事にせず、学校全体で組織的に行う。 ②「人権集会」を一分掌(教務)の行事にせず、学校全体で組織的に行う。 | / | 3 | B | 小中学校との話し合いを踏まえ、発達段階に応じた内容にすることができた。 |
| | 奉仕する心の育成 | お互いが支えあう社会の仕組みを理解させ、奉仕する心を育成する。 | ①「海浜清掃」等の行事を小中高の合同行事として、校種を越えて一体的に取り組む。 ② 町や地域が実施する行事等に積極的に参加し、地域社会の大きな担い手であることを意識させる。 | | | | |